

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H00752

研究課題名（和文）ソーシャルビジネスの展開とソーシャル・アントレプレナーシップの統合的研究

研究課題名（英文）An integrative study of social business development and social entrepreneurship

研究代表者

横山 恵子（YOKOYAMA, KEIKO）

関西大学・商学部・教授

研究者番号：00349325

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ソーシャルビジネスが創生した場（組織タイプ）によって、ソーシャル・アントレプレナーシップの対内外の影響や制約が異なると考え、NPO、ソーシャル・ベンチャー、社会志向型企業、一般企業、協働に類型化したタイプごとに研究を進めた。
各類型のソーシャル・アントレプレナーシップの促進要因および阻害要因を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通して、ソーシャルビジネスのビジネスモデル確立から発展へと導くソーシャル・アントレプレナーシップのあり方への理論的・実践的インプリケーションを導出した。多様なソーシャル・アントレプレナーシップを解明する上で、ソーシャルビジネス創生の場（組織）に着目したことで、一般的な企業や協働の場といった多様なソーシャル・アントレプレナーシップを視野に含むことができ、各類型ごとの促進要因および阻害要因をまとめることができた。

研究成果の概要（英文）： This study considers that the internal and external influences and constraints of social entrepreneurship differ depending on the place where social business is created (organization type), and conducts research on each type of social entrepreneurship, which is categorized into (1) NPOs, (2) social ventures, (3) socially-oriented companies, (4) general companies, and (5) collaborative.

We identified the factors that promote and hinder social entrepreneurship in each type.

研究分野：経営学

キーワード：ソーシャル・アントレプレナーシップ ソーシャルビジネス 事業承継 コレクティブ・インパクト
協働

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

日本のソーシャル・アントレプレナーシップ(SE)が、十分な社会的インパクトを上げているのか、疑問視されている。日本のSEの成果は、平均的には小規模なインパクトにとどまり、特にソーシャルビジネスを専業で担う組織が成長できず、小規模なままにとどまっているとされる(日本総合研究所 2017)。また一般の大企業等が実施するソーシャルビジネスに関しても、本業での事業化は難しいとされ、途中で頓挫して財団に移されるという事例研究等が報告されている(横山 2019)。このように、ソーシャルビジネスは創生されているが、順調に育っているとは言いがたい状況にある。それに対して、これまでのSE研究は創業前後を中心に研究が行われ、時系列で長期間のプロセスを追った研究は少ない。ハイブリッド組織のマネジメントに限定した文脈で行われているものが数点あるにとどまる(Kannothra, et al., 2018; Smithe & Besharov, 2019)。しかし、社会的インパクトをもたらすソーシャルビジネスを包括的に解明するためには、創業前後に加えて、ビジネスモデルの確立からスケールディープ・スケールアップ・スケールアウトといった発展ステージも含めて検討する必要がある。

したがって、以上のような学術的背景の下、本研究の学術的問いは、「社会的インパクトをもたらすソーシャルビジネスとはどのようなもので、どのようなプロセスを経て育っていくのか。社会的インパクトをもたらすソーシャルビジネスを創生させ、展開させるソーシャル・アントレプレナーシップ(SE)とはいかなるものか」というものである。

2. 研究の目的

「社会的インパクトをもたらすソーシャルビジネスの創生・展開の解明」という学術的問いにこたえるために、本研究の目的は、ソーシャルビジネス創生・展開における阻害要因の抽出と、それを克服するソーシャル・アントレプレナーシップ(SE)のプロセスとキイ・ファクターを明らかにすることにある。その際に、個人・組織・制度の各レベルに潜む阻害要因を整理するとともに、組織制約を考慮するために、ソーシャルビジネスの創生した場(組織)ごとに詳細な検討を行う。本研究は、方法論的トライアングレーションを採用して、詳細な個別事例分析と比較事例分析、定量分析、理論研究を組み合わせる。本研究を通して、ソーシャルビジネスのビジネスモデル確立から発展へと導くソーシャル・アントレプレナーシップのあり方への理論的・実践的インプリケーションを導出する。

具体的には、ソーシャルビジネスが生まれ、育つといった展開過程において、いかなる阻害要因が考えられ、ソーシャル・アントレプレナーシップ(SE)はいかにすれば、その阻害要因を乗り越えることができるのか、検討することにある。ソーシャルビジネスの展開ステージを、(A)創生前ステージ、(B)創生ステージ(プロトタイプ・ステージ、ビジネスモデル創造期)、(C)ビジネスモデル確立ステージ、(D)発展ステージ(スケールディープ、スケールアップ、スケールアウト)と4ステージに分けて考え、各ステージにおける阻害要因の抽出、および克服するSEのプロセスとキイ・ファクターを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、目的遂行のために、具体的には以下のステップを踏む。

- (1) ソーシャル・アントレプレナーシップ (SE) およびソーシャルビジネスに関する**先行研究のサーベイ**。
- (2) ソーシャルビジネスの事業展開上に生じる阻害要因を捉える**枠組みの提示と精緻化**。
- (3) 2次資料を中心とした**パイロット調査**。
- (4) 各組織タイプのソーシャル・アントレプレナー (チーム) への**インタビュー調査**に基づく、事業展開の阻害要因とその克服のプロセスおよび**キイ・ファクターの仮説発見**。
- (5) ソーシャル・アントレプレナー (チーム) 対象の**アンケート調査**による**仮説検証**。
- (6) 理論研究、定性研究、定量研究から得られた**分析結果の統合**による、ソーシャルビジネス阻害要因とそれらを克服する、社会的インパクトをもたらす**SE理論の体系化**。
- (7) 戦略論・組織論視点の、社会的インパクトをもたらす**SEへの処方箋の提示**を行う。

4. 研究成果

本研究は、ソーシャルビジネスが創生した場 (組織タイプ) によって、ソーシャル・アントレプレナーシップの対内外の影響や制約が異なると考え、図 1 に類型化したタイプごとに研究を進めた。

図 1

組織タイプ	概要	ケース例
① NPO	事業型NPO, 一般社団法人, 社会福祉法人などの中で生まれたソーシャルビジネス	<ul style="list-style-type: none"> • (N) テーブルフォーソウの世界の人々の健康を同時改善事業 • (N) ETICの各事業 • (N) カタリバのカタリバ事業やコラボ・スクール事業 • さまざまなNPOが展開するフェアトレード事業
② ソーシャル・ベンチャー	ソーシャルビジネスを展開するために生まれた営利組織における、当該ソーシャルビジネス	<ul style="list-style-type: none"> • (株)ボーダレスジャパンの社会起業家のプラットフォーム事業 • (株)Seventh Generation Projectの各事業 • (株)マザーハウスの各事業 • (株)マイファームの耕作放棄地の貸し農園事業
③ 社会志向型企业	ソーシャルミッションが極めて強い営利組織で生まれたソーシャルビジネス	<ul style="list-style-type: none"> • バタゴニアのWorn wear 事業 • (株)ユーグレナのユーグレナGENKIプログラム, 緑豆事業 • リタワークス(株)のコングラント事業 • アイエスエフネットグループの雇用事業
④ 一般企業	③以外の営利組織で生まれたソーシャルビジネス	<ul style="list-style-type: none"> • (株)ポリグルの海外途上国ビジネス • 味の素(株)のガーナでの栄養改善事業 • (株)ユニクロのサステナビリティ事業
⑤ 協働	コレクティブ・インパクトや地域活性化など、協働で生まれたソーシャルビジネス	<ul style="list-style-type: none"> • (株)アーバンリサーチと地域組織の協働による、コンポスト事業 • 三重県多気町の相可高校を中心とした協働による、まごブランド事業

に関しては、ソーシャル・アントレプレナーシップの伝承に関して、事業承継フェーズにフォーカスを絞って研究を進めた。ソーシャル・アントレプレナーシップの事業承継に絡む諸課題を明らかにするとともに、その緩和策・解決策を定量的かつ理論的に検討した。具体的には、文献研究から、事業承継というソーシャル・アントレプレナーシップ伝承の成否を規定する要因として、創設者シンドローム、リーダー・TMT 特性、事業承継計画、ガバナンス、組織特性の5要因を抽出し、それら要因に基づく分析フレームワークを構築して、日本のNPOにアンケート調査を実施し分析した。その結果、創設者シンドロームという現象が日本のNPO業界に生起していること、その緩和のためには組織化の程度が大きく影響することを明らかにした。

と に関しては、パレーシアステースというフーコーが論じた概念を用いて、ソーシャル・アントレプレナーシップの行動様式を分析した。ソーシャル・アントレプレナーシップを既存の体制と異なる真理を語り、勇気をもって、リスクを冒し挑戦する企業家の生き方としてとらえ、そこにおいて企業家的真理ゲームとして展開される企業家活動の政治的・倫理的実践の二重性

がみられることを明らかにした。

またソーシャル・アントレプレナーシップのサーベイ研究を実施して、概念化の軌跡と課題をとりまとめた。先行研究を整理して、SE 概念化の試みを整理し、その基本的な特徴を4つの基本的構図としてまとめた。中でも、制度ロジックに基づく概念化とその実証研究が欧米を中心に世界で展開されてきている様子を整理した。そして、ソーシャル・アントレプレナーシップの社会性基準と資源動員の側面からの課題を導出して、今後のこの分野における研究上の焦点を明らかにした。

さらに、日本の障がい者の就労移行支援事業会社のソーシャル・アントレプレナーシップを制度ロジックの視座から複数事例分析を行い、社会性ロジックと経済性ロジックへの重きの置き方によってマネジメント成果が異なることを見出した。

に関しては、大企業における、コーポレート・ソーシャル・アントレプレナーシップの解明に向けて、インテンシブな事例研究を行った。具体的には、既存企業内でコーポレート・ソーシャル・アントレプレナーシップが発揮するメカニズムを解明した。理論的含意としては、コーポレート・ソーシャル・アントレプレニユアル・インテンションについては、ソーシャル・アントレプレニユアル・インテンションの議論を援用し拡張し得ることを明らかにした。そして、メカニズムを説明するフレームワークを構築した。実践的含意としては、コーポレート・ソーシャル・アントレプレナーシップを展開する上では、まずコーポレート・アントレプレナーシップを鍛える必要があることを見出した。

に関しては、協働におけるソーシャル・アントレプレナーシップ現象の解明である。社会的価値創造のために、多様で異質な組織との協働を遂行していく上で、ソーシャル・アントレプレナーシップは、2段階のフェーズを経ること、しかもソーシャル・アントレプレナーの集会的努力がみられることを、事例研究から明らかにした。2段階のフェーズは、協働のマッチングを図るプラットフォーム創造という企業家活動 と、ソーシャルビジネスの事業化を推進する企業家活動 である。特に、見逃されやすい企業家活動 の重要性を説いた。そこでは、フレーミング (framing)、コンビーニング (convening)、マルチボカリティ (multivocality) という、ソーシャル・アントレプレナーたちの相互に関連した戦略的活動が見られた。また企業家活動 では、協働間、もしくは1組織内での正当化活動がみられたが、協働間においては協働的妥協戦略が、1組織内では創造的正当化プロセス行動が行われていた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Goto Yuichi, Yokoyama Keiko	4. 巻 -
2. 論文標題 A Study on Management Supporting Employment of Disabled in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Corporate Social Responsibility in a Dynamic Global Environment: Sustainable Management in Challenging Times	6. 最初と最後の頁 47~63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-031-24647-0_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Zeng Yanqin, Katsumata Sotaro, Zhang Qingyu, Li Xi	4. 巻 -
2. 論文標題 Organizational inclusion and sustainable development: An empirical evidence from the context of Eastern culture	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Sustainable Development	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/sd.2942	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山恵子	4. 巻 -
2. 論文標題 ソーシャル・アントレプレナーシップと経営倫理	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経営倫理入門：サステナビリティ経営をめざして	6. 最初と最後の頁 222-226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江島 由裕	4. 巻 730
2. 論文標題 起業成功のカギは何か? : 事業創造と成長プロセスの視点	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経済セミナー	6. 最初と最後の頁 35-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江島 由裕	4. 巻 21
2. 論文標題 企業家研究の現状と課題（経営学分野）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 企業家研究	6. 最初と最後の頁 49～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34418/fes.21.0_49	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山 恵子	4. 巻 2
2. 論文標題 ソーシャルビジネスと人権	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 サステナビリティ経営研究	6. 最初と最後の頁 28～31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20664/jabesssb.2.0_28	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山 恵子、小室 達章、津田 秀和	4. 巻 50
2. 論文標題 NPOにおける事業承継の規定要因	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本経営学会誌	6. 最初と最後の頁 17～30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24472/keiejournal.50.0_17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山 恵子	4. 巻 56
2. 論文標題 ソーシャル・アントレプレナーシップとは何か：概念化の軌跡と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 組織科学	6. 最初と最後の頁 15～26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11207/soshikikagaku.20230217-2	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山 恵子、後藤 祐一	4. 巻 22
2. 論文標題 制度ロジックからみた社会的企業のマネジメント	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ノンプロフィット・レビュー	6. 最初と最後の頁 13~24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11433/janpora.NPR-D-22-00006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田 秀和, 横山 恵子, 小室 達章	4. 巻 32
2. 論文標題 NPOの事業承継の考察(2)アンケート調査結果の検討を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知学院大学論叢経営学研究	6. 最初と最後の頁 29-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山 恵子、小室 達章、山本 義郎	4. 巻 21
2. 論文標題 NPOの事業承継における創設者シンドローム	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 企業家研究	6. 最初と最後の頁 1~17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34418/fes.21.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keiko Yokoyama	4. 巻 1
2. 論文標題 Social Entrepreneurship in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Routledge Companion to Corporate Social Responsibility	6. 最初と最後の頁 308-318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 津田秀和, 横山恵子, 小室達章	4. 巻 31 (2)
2. 論文標題 NPOの事業承継の考察(1)アンケート調査結果の検討を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知学院大学論叢経営学研究	6. 最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山恵子	4. 巻 第2号
2. 論文標題 ソーシャルビジネスとソーシャル・アントレプレナーシップ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 やさしいビジネスレビュー	6. 最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Keiko Yokoyama, Yukihiro Wakuta
2. 発表標題 Social Entrepreneurship through Collaboration A Case Study on Sustainable and Inclusive Social Business Development in Japan.
3. 学会等名 The 9th International Conference on CSR, Sustainability, Ethics & Governance (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高見啓一, 横山恵子
2. 発表標題 高校生のアントレプレナーシップ教育と能力開発モデル：実践共同体におけるサードプレイスと越境学習
3. 学会等名 2023年度組織学会研究発表大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Keiko Yokoyama, Haruomi Shindo
2. 発表標題 Creating Social Business in a Japanese Department Store
3. 学会等名 The 10th International Conference on Social Responsibility (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横山恵子
2. 発表標題 CI実践と魅力的なストーリー
3. 学会等名 コレクティブ・インパクト勉強会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横山恵子, 佐々木利廣, 桂山奈緒子, 三好健太郎, 田中成幸
2. 発表標題 コレクティブ・インパクトの現在知
3. 学会等名 2023年度日本ベンチャー学会第26回全国大会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横山恵子; 井上英之; 佐々木利廣; 吉田忠彦; 小室達章
2. 発表標題 ソーシャル・アントレプレナーシップと協働、そしてコレクティブ・インパクト
3. 学会等名 日本NPO学会第24回研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横山恵子;後藤祐一
2. 発表標題 社会的企業のマネジメントと組織成果に関する考察
3. 学会等名 日本経営倫理学会第30回記念大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 江島 由裕
2. 発表標題 企業家研究の現状と課題（経営学分野）－『出発点』『現在地』『展望』－
3. 学会等名 企業家研究フォーラム 第20回年次大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 江島 由裕
2. 発表標題 ADHD起業家研究から見えてきた新たな企業家像～高い不確実性への適合～
3. 学会等名 第42回 中小企業学会全国大会統（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuichi Goto, Keiko Yokoyama
2. 発表標題 A Study on Management Supporting Employment of Disabled in Japan
3. 学会等名 The 7th International Conference on CSR, Sustainability, Ethics & Governance (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平澤哲, 横山恵子, 伊藤博之, 山田仁一郎, 筈井俊輔
2. 発表標題 パレーシアの行使と社会的企業家の倫理的な主体形成：彼女はいかにしてボディショップのアニータ・ロディックになったのか？
3. 学会等名 日本経営学会第95回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横山恵子
2. 発表標題 ソーシャル・アントレプレナーシップ概念と教育実践
3. 学会等名 日本経営倫理学会11月度研究交流例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横山恵子, 金井一頼
2. 発表標題 コレクティブ・ソーシャル・アントレプレナーシップによるソーシャル・ビジネス開発
3. 学会等名 日本ベンチャー学会第24回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshihiro ESHIMA
2. 発表標題 Those who fall in love with themselves fare better in a hostile world.
3. 学会等名 Babson College Entrepreneurship Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤祐一
2. 発表標題 社会企業家研究の課題と展望
3. 学会等名 日本ベンチャー学会第24回全国大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 佐々木 利廣、横山 恵子、後藤 祐一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 276
3. 書名 日本のコレクティブ・インパクト	

1. 著者名 大阪経済大学中小企業・経営研究所「中小企業季報」200号記念企画委員会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 同友館	5. 総ページ数 288
3. 書名 深化する中小企業研究	

1. 著者名 新藤 晴臣	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 208
3. 書名 コーポレート・アントレプレナーシップ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	江島 由裕 (ESHIMA Yoshihiro) (00382359)	大阪経済大学・経営学部・教授 (34404)	
研究分担者	後藤 祐一 (Goto Yuichi) (10613581)	大阪経済大学・経営学部・准教授 (34404)	
研究分担者	金井 一頼 (KANAI KAZUYORI) (50142831)	大阪公立大学・大学院都市経営研究科・特任教授 (24405)	
研究分担者	新藤 晴臣 (Shindo Haruomi) (70440188)	中央大学・戦略経営研究科・教授 (32641)	
研究分担者	勝又 壮太郎 (Katsumata Sotaro) (80613588)	大阪大学・大学院経済学研究科・教授 (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関